

大阪母子保健研究 16-24 ヶ月時追跡データの結果 母乳摂取と喘鳴、喘息のリスクとの関連

背景：母乳摂取の喘息に対する影響については議論が続いています。日本の一つの横断研究では、正の関連を報告していますが、別の横断研究では関連がありませんでした。日本人における前向きコホート研究の報告はありません。

方法：大阪母子保健研究のベースライン調査、第1回と第2回追跡調査（生後16-24 ヶ月時）に参加した763名を対象としました。人工乳や離乳食を与えず、母乳のみの摂取期間を専ら母乳期間とし、専ら母乳期間が生後4 ヶ月未満の子供に比較して、4 ヶ月以上の子供の喘息（医師診断）、喘鳴（ISAAC）のオッズ比を算出しました。さらに、人工乳や離乳食の摂取にかかわらず母乳を与え続けた期間を部分母乳期間としました。部分母乳期間が6 ヶ月未満の子供に比較して、6 ヶ月以上の子供のオッズ比を算出しました。母親の年齢、年収、両親の教育歴、両親のアレルギー既往、妊娠中の母親の喫煙、受動喫煙、屋内ペット、追跡調査時期、年上の兄弟数、性別を補正しました。

結果：喘鳴及び喘息の累積罹患率はそれぞれ22.1%と4.3%でした。喘鳴、喘息の専ら母乳4 ヶ月未満に対する4 ヶ月以上の補正オッズ比は、それぞれ1.05と1.07で有意な関連はありませんでした。部分母乳6 ヶ月未満に対する6 ヶ月以上の補正オッズ比はそれぞれ1.19と0.63で有意ではありませんでした。両親ともアレルギー疾患の既往のない群では部分母乳6 ヶ月以上の喘息の補正オッズ比は0.38でしたが、統計学的に有意ではありませんでした。

結論：母乳摂取は喘鳴、喘息のリスクに影響しませんでした。

出典： Miyake Y, Tanaka K, Sasaki S, Kiyohara C, Ohya Y, Fukushima W, Yokoyama T, Hirota Y. Breastfeeding and the risk of wheeze and asthma in Japanese infants: The Osaka Maternal and Child Health Study. *Pediatr Allergy Immunol.* 2008; 19: 490-496.

